

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第11号

イチゴのうどんこ病およびハダニ類の発生について

イチゴのうどんこ病については、6月から7月にかけて多発しましたが、7月下旬から8月中旬まで発病に不適な高温の気象条件であったため、8月5半旬調査では発病株率が低下しました。

しかし、8月中旬以降は低温・多雨傾向が続き、9月2半旬調査では平年・前々年よりも発病株率が高く、増加傾向にあります。福岡管区気象台が9月10日に発表した向こう1カ月の気象予報でも、気温が低く降水量が多いと予想されていますので、定植後に発生が増加することが懸念されます。本ぼでの多発を防ぐため、防除を徹底しましょう。

また、ハダニ類がやや多発しています。多発後は防除が困難になるので、早期発見に努め、うどんこ病と併せて初期防除を徹底しましょう。

1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：うどんこ病、ハダニ類

3 発生状況（育苗期）

(1) うどんこ病

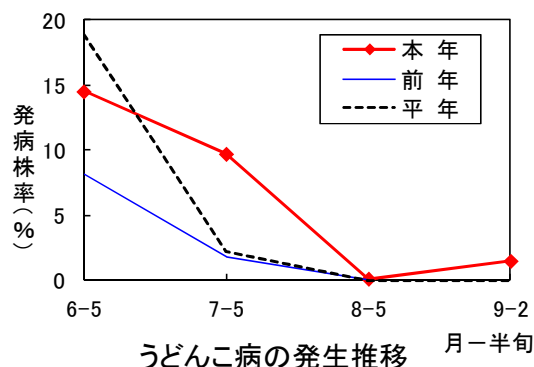
ア 9月2半旬調査の結果、発病株率は1.5%であり、平年に比べて高く、8月5半旬よりも増加している。

8月5半旬の発病株率 0.1% (前年 0%、前々年 0%、平年 0%)

9月2半旬の発病株率 1.5% (前年 ー、前々年 0.1%、平年 0.02%)

イ 本年7～8月の30℃以上の積算時間は、前年より多いが前々年より非常に少なく、うどんこ病菌の越夏量は多いと考えられる。

7～8月の30℃以上の積算時間 252時間 (前年 147時間、前々年 707時間) (アメダス福岡値)

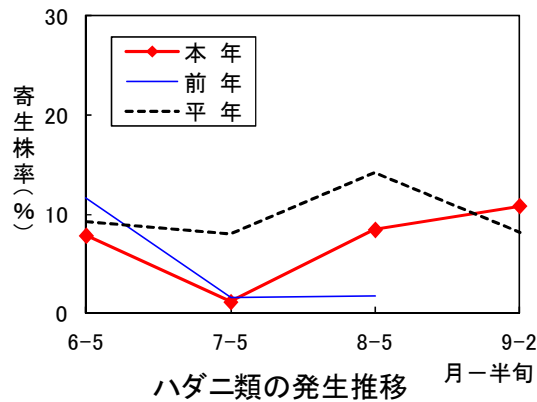


※ 前年の9-2は未調査。他のグラフも同様。

(2) ハダニ類

9月2半旬調査の結果、寄生株率は10.8%であり、平年に比べてやや高く、8月5半旬よりも増加している。なお、寄生株率50%程度の多発ほ場が、調査ほ場12ほ場中2ほ場で確認された。

- ・ 8月5半旬の寄生株率 8.4% (前年 1.8%、平年 14.2%)
- ・ 9月2半旬の寄生株率 10.8% (前年 ー、平年 8.1%)



4 防除上注意すべき事項

(1) うどんこ病

ア 不要な下葉は早めに除去する。防除は下葉かぎ後に行うと効果的で、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イ 9～11月は発生が増加しやすい時期なので、定植前後からビニール被覆まで防除を徹底する。薬剤については、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

(2) ハダニ類

ア 하우스内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。

イ ビニール被覆後に多発しやすいので、被覆までの防除を徹底し、初期密度を低下させる。

ウ 各種薬剤の感受性が低下しており、多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。

エ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



葉表の病徴



葉裏の病徴



ナミハダニの雌成虫
および卵

うどんこ病の病徴